

オオキンケイギク

被害

■在来の生態系への影響

・オオキンケイギクは、日本の生態系に重大な影響を及ぼす恐れのある植物として、外来生物法により「特定外来生物」に指定されています。

・在来種(以下の種)との競合が懸念されます。

河川敷：カワラサイコ、カワラナデシコ、カワラヨモギ など
道端：カンサイタンポポ、スマレ、チガヤ、ヨモギ など

特徴

■生活史 オオキンケイギクは同じ株から何年も花を咲かせる**多年草**です。

■草丈 30~70 cm

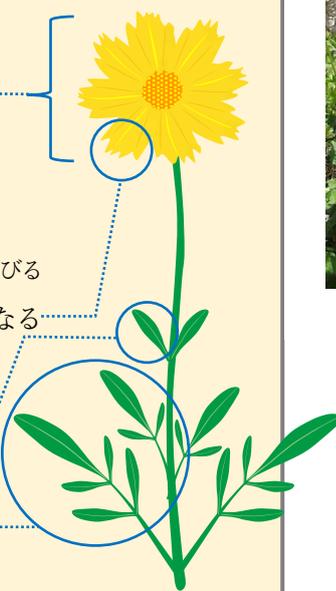
■茎 束になって株立ちする

■花 5~7月頃に咲く

- ・大きさ：5~7 cm
- ・色：橙黄色
(注) 一部の品種は花びらの基部が赤みを帯びる
- ・花びらの先：4~5列のギザギザになる

■葉

- ・楕円形で丸みを帯びることが多い
- ・上方の葉：分裂しない
- ・下方の葉：3~5枚の小葉に分裂
- ・表も裏もあらい毛がある



生育場所

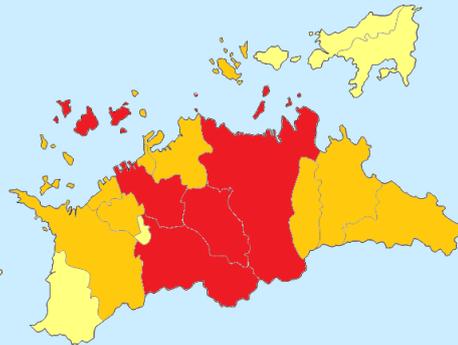
■日当たりの良い人工環境

- ・河川敷
- ・河川の堤防
- ・ため池の堤
- ・道端
- ・その他、墓地や荒地 など

分布状況

生息確認箇所

- 多い
- やや多い
- 少ない



原産地域：北アメリカ

↓
1880年代：日本／観賞用・緑化用として導入

↓
1974年：香川県／栽培したものが逸出・定着していた

↓
当初は、観賞用に栽培したものが逸出し野生化したのが、その後道路法面緑化や修景用に大規模に種子吹付けが実施され、急速に県内に拡大した。

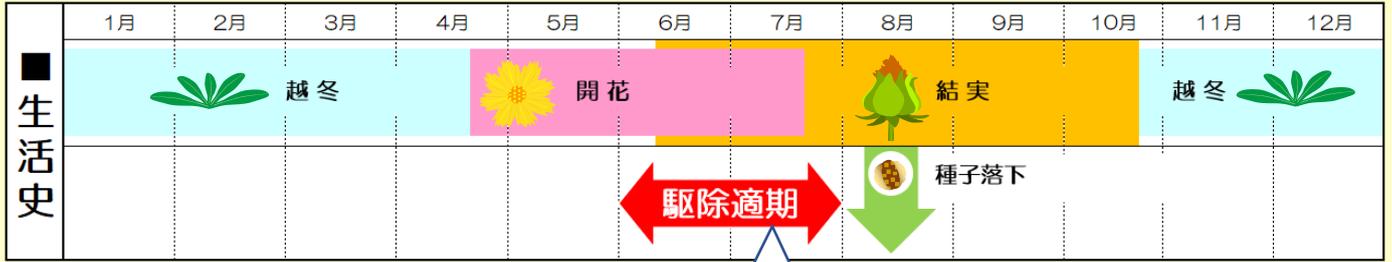
↓
2023年3月時点：県内では8市9町に分布
(全国では、沖縄を除く全域で発見されている)

裏面をご覧ください

防除対策

予防対策

防除対策



■駆除の時期について

・種子の拡散を防ぐためにも、種子ができる開花期の始め頃(6月～7月)に、駆除するのが望ましいです。

■駆除の継続について

・多年草で繁殖力が強く、地上部を刈り取っても、地下の根からすぐに地上部が生えてくるため、簡単に駆除できません。根気よく続けることが重要です。

・駆除の範囲や、かかる労力に応じて駆除の方法や用いる道具を検討してください。



■オオキンケイギクを発見した場合 (自主的な駆除にご協力ください！)

・放置してしまうと、繁殖してしまう危険性がありますので駆除することが大切です。

・積極的な対策として、自治会等で行う清掃に合わせて駆除するのも効果的です。

■駆除(抜き取りによる根絶)

・必ずスコップや根掘りを用いて根ごと抜き取ってください。

(根に強い再生能力があるため、完全に抜き取る必要があります。)

■駆除(刈り払いによる抑制)

・刈り払い機や鎌による刈り払いは、種子をつける前に実施すれば、種子による繁殖を抑える効果があります。

(1つの花には約100個の種子ができ、北米の研究では種子の寿命は2～13年との報告がありますので、刈り払いは、あくまで補助的な抑制効果しかありません。)



■処分

・外来生物法により、駆除したオオキンケイギクの生きたままの運搬は禁止されているので、種子が拡散しないよう袋に密閉して枯死させる等した後で、各自治体のゴミ処理方法に従って処理してください。

・地上部を駆除しても、その場所の土を移動させる等すると、地中にある種子を別の場所に拡散してしまう可能性もあるので、注意しましょう。

■対策

道端や河川敷で見つけた場合には、管理者、または県みどり保全課にお問い合わせください。



《連絡先》

香川県環境森林部 みどり保全課
電話：087-832-3227
E-mail：midorihozen@pref.kagawa.lg.jp

予防対策

予防三原則

- ① 入れない
- ② 捨てない
- ③ 拡げない

= 野外にすでにいる外来生物は =
他地域に拡げない。

■花がきれいだからといって、自宅に植えないでください。

■清掃活動等で草刈りを行う際には、残さずしっかりと刈り取りましょう。